

筆談、身振りで談笑 聴覚障害者 太田さんを撮影

日常丹念に描く

湖西市でサーフショップを経営する聴覚障害者の太田辰郎さん(49)―浜松市西区篠原町―を2年間にわたって追い続けたドキュメンタリー映画「珈琲(コーヒー)とエンピツ」が完成間近になり、11日、太田さんや撮影に当たった今村彩子監督(32)らスタッフが湖西市役所を訪問して三上元市長に報告した。映画は全国に先駆けて10月1日午後2時から、同市古見の市民会館で上映される。

今村監督

湖西市長に上映報告

太田さんは学生時代に先輩から教わったサーフィンに魅了され、30年以上の経歴の持ち主。2007年には勤務先を退職して両親の出身地である湖西市にサーフ用品とハ

ワイアン雑貨を販売する店舗をオープンするまでになった。映画は、同様に聴覚に障害がある今村監督が友人を通して太田さんの存在を知ったこと

がきっかけで撮影されることになり、不自由な境遇を乗り越えて筆談で会話したり、ハワイアンコーヒーで客をもてなす太田さんの日常を丹念に描いた。

三上市長と面会した今村監督は「筆談や身振りで談笑する太田さんの姿に、同じ障害者の自分もこれまで抱えてきた心の壁が取り壊される思いがした」と報告。太田さん



ドキュメンタリー映画の上映を前に、撮影の様子を報告する太田さん(左)と今村監督(中央)―湖西市役所……障害者と健常者の垣根を取り払うことができれば―と話し、PR用に作製したTシャツやポスターなどを寄贈した。